

Crew Voice

2017年4月24日 第13号

JR東海労・新幹線車内業務見直し反対プロジェクト

車掌長（列車長）の業務量は2倍になります 乗務前から不安になりませんか？

「車内業務見直し」では車掌長（列車長）の業務量は大幅に拡大します。中乗り車掌がないことで中乗り車掌の業務がそのままかぶさってくるのです。業務量全体でいうなら、これまでの一列車3人分の仕事を2人で担当するというよりも車掌長については2人（車掌長の業務と中乗り車掌の業務）の仕事を1人でしなければならないといえます。

みなさんの普段の業務でおわकारの通り、車掌業務は業務が集中する時間帯と迅速な対応が求められるときなど特性があります。同じ乗務員でも運転士とは業務にかかる負担は相対的に違うのです。今回の「車内業務見直し」で中乗り車掌がないと、どうなるのか一例を見てみます。

グリーン席の変更等を車掌長一人で対応できますか？

週末や多客期には多くのお客様がドア開扉を待ってドアが開くと同時に車掌室の前にお客様の列ができることがよくあります。早乗り、乗り遅れなどでもグリーン席変更が可能ということでお客様が殺到するのです。一人ひとりのお客様に対して空席確認、座確、発券等を発車前からしなければなりません。グリーン車のお客様からは高額な料金をいただいているので素早い対応が求められるのです。これまで中乗りがいたから車掌長の代わりにお客様対応ができましたが、今後は車掌長一人でこなさなくてはなりません。

発車前後に発生する車掌長の業務を会社が把握しているのでしょうか？現行でも慌てふためく状況なのに、今後中乗り車掌不在に伴い、より過酷な条件となるのです。会社は、中乗り車掌がないことで発生する状況を認識していないと言わざるを得ません。

その他にも今後、車掌長にかかわる業務（自由席改札など）多くの問題が山積しています。これらについても情報で明らかにしていきます。

私たちは車掌長（列車長）の業務量拡大に反対します。